

道徳教育の基礎と道徳学習指導案の作成方法を学ぶ

学校教育・山口 充

1. 授業の目的・到達目標と概要

1) 科目区分と受講者数

本授業、道徳教育指導論は、教員養成課程の2回生と医学部看護学科の1回生を対象とする教職専門科目(A)である。履修者数は、教員養成課程143名、医学部看護学科8名、合計151名である。

2) 授業の目的と到達目標

本授業は、「道徳とは何か、道徳教育とはどのような教育かを考えることに加え、道徳性の発達や道徳教育の理論や歴史について学ぶとともに、学校における道徳教育の方針・目標・内容・方法について理解を深め、道徳指導の実践力を身につけること」(シラバスより)を目的とする。

授業の到達目標は以下の四つである。(1)道徳及び道徳教育とは何かについて説明できるとともに、暫定的な自分なりの道徳教育観をもつことができる(知識・表現・意欲)、(2)道徳性の発達に関する諸理論を学び、道徳性発達の基本的過程を理解するとともに、そこに含まれている問題点を指摘できる(知識、表現)、(3)『学習指導要領』及び『学習指導要領解説・道徳編』等から道徳教育の目標・内容・方法・指導計画等について学び、説明できる(知識・表現)、(4)道徳の授業をデザインし、道徳学習指導案を作成することができる(知識・技能・意欲)の4点である。

3) 授業の概要

上記の授業の目的・到達目標を達成するため、授業は以下の諸テーマに沿って展開された。

(1)道徳及び道徳教育の構造と意味、(2)子どもの道徳性の発達過程、(3)学校における道徳教育の方針・目標・内容・方法・評価、(4)道徳指導案の作成、(5)二人の現地講師による、小学校及び中学校における道徳教育の実際に関する講話。

2. 授業改善のためのアンケートの結果

授業の最終回に授業改善のためのアンケートを実施した。アンケートは5段階評価の部分と自由記述の部分から構成されている。アンケート

に回答した受講生は138名であった。

1) 5段階評価の結果(なお、設問9は時間外学習の時間を問う質問である。)

設問1:「あなたはこの授業へ意欲的に取り組みましたか。」

平均3.68であった。得点の割合は、a[強くそう思う]が10%、b[ややそう思う]が54%、あわせて64%であった。

設問2:「授業のテーマや目標は明確でしたか。」

平均は3.75であった。a[強くそう思う]が12%、b[ややそう思う]が54%、あわせて66%であった。

設問3:「教員の話し方や説明の仕方(板書を含む)は分かりやすかったですか。」

平均は3.57であった。a[強くそう思う]が14%、b[ややそう思う]が41%であり、あわせて55%であった。

設問4:「教科書や配布資料、プリント等の教材は適切でしたか。」

平均は4.01であった。a[強くそう思う]は23%、b[ややそう思う]は59%であり、あわせて82%であった。

設問5:「授業の進度や内容、レベルは適切でしたか。」

平均は4.01であった。a[強くそう思う]が23%、b[ややそう思う]が56%であり、あわせて79%であった。

設問6:「教員は授業を改善する努力をしていましたか。」

平均は3.94であった。a[強くそう思う]が25%、b[ややそう思う]が48%であり、あわせて73%であった。

設問7:「あなたはシラバスに記載されている到達目標に達したと思いますか。」

平均は3.56であった。a[強くそう思う]が0.7%、b[ややそう思う]49%で、あわせて49.7%であった。

設問8:「授業時間外学習の課題は適切に提示されていましたか。」

平均は、3.75であった。a [強くそう思う] が 18%、b [ややそう思う] が 47%で、あわせて 62%であった。

設問 9 : 「あなたは、この授業 1 回につき、平均してどの程度時間外学習をしましたか。」

2 時間以上 : 0 人、 1 時間以上~2 時間未満 : 8 人、 1 時間未満 : 85 人、まったくしていない : 43 人、 回答なし : 1 人

設問 10 : 「この授により考え方が培われたり、得るところがありましたか。」

平均は 3.97 であった。a [強くそう思う] が 18%、b [ややそう思う] が 64%であり、あわせて 82%であった。

2) 自由記述による受講生の声 (3 項目)

3 項目について自由記述を求めた。学生個人には承諾を得ていないが、個人情報に配慮しつつ、その一端を記載する。

(1) 「この授業で良かった点」

[道徳や道徳教育について]

- ・ 授業構成の方法だけでなく、哲学的な内容も扱っていただけだったので、個人的に楽しかった。/道徳の指導の仕方がわからなかったため、道徳の意味そのものから学習したことがよかった。
- ・ 道徳教育はどんな教育かを、いくつかの視点から考えた。/道徳の授業についてのイメージが大きく変わった。

[授業の内容や資料などについて]

- ・ プリント等の教材が豊富で、自己学習する際にもとても参考になりました。/レジュメが非常に分かりやすく、後から読み返しても内容が理解しやすかった。
- ・ 学習指導要領について詳しく解説してくれた。

[授業の進め方や方法について]

- ・ 授業内容を順序だてて説明しており、理解しやすかった。/穴埋め方式のプリントは、大切どころが分かり、よかった。/外部講師の話が有益でした (多数)。

[指導案作成等の課題について]

- ・ グループで指導案を作り、考えを深めることができた。来年の実習に向けて役立つと思う。/道徳の指導案を作る練習をすることで、道徳の授業の進め方がわかり、また、その難しさを知った。/道徳の指導案を実際に考えてみることによって、道徳を教える

ことについて真剣に考えることができた。

- ・ レポートや道徳指導案の作成などによって、学びを深めることができた。/授業内に課題をやる時間があり、負担にならなかった。

(2) 「この授業で改善すべき点」

[授業の内容や資料について]

- ・ 少し内容が難しい。/道徳の意味に関する理論の部分が難しい。
- ・ 人数が多いので仕方ないと思うが、プリントを配布するのに時間がかかっていた。

[授業の進め方や双方向性について]

- ・ もう少し主体的な活動があってもよかったと思う。/話し合いを取入れるなど、一方的な知識の伝達にならないようにしたらよい。/指導案作りだけでなく、普段の授業でももう少し話し合いの時間があってもよかった。

[指導案作成について]

- ・ 人数の関係で難しかったと思うが、やはり模擬授業を行いたかった。/指導案を作るとき、題材を自分たちで選んでもよかったのではないかと。/個人で指導案を考えてもよかったと思う。

[板書・出欠などについて]

- ・ 仕方がないことですが、人数が多くて、授業の環境があまりよくなかった。/5 時限という時間帯が辛かった。/出席カードを最後に配ると、それにあわせて出席する学生もいるのではないだろうか。

(3) 「その他、この授業を受けて気づいた点、感じた点」

- ・ 新しい価値観が身に付いたと思います。毎回の授業が楽しみでした。
- ・ 道徳という分野は、授業を作ることが難しく、一人一人が個性が出るものだと思う。
- ・ 指導案作りなど、とてもよい内容だった。/満足 of いく授業だった。
- ・ 外部講師の先生の話聞くことができ、とてもためになりました。

3. 総括と課題

1) 「5 段階評価」に関する総括

受講生が 150 名に及んでおり、きめ細かな授業を行うことができなかった。それを各項目の評価が反映している。

設問 1 の「学生の授業への取り組み意欲」は、平均得点が 3.68、設問 2 の「授業のテーマや目

標の明確性」は 3.75、設問 3 の「教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ」は 3.57、設問 6 の「授業改善への努力」は 3.94、設問 8 の「授業時間外の課題の提示」は 3.75 と、これらの項目ではいずれも、3 点台後半であり、総じて「普通」の域を出ていない。

設問 4 の「配布資料、プリント等の教材は適切さ」は 4.02、設問 5 の「授業の進度や内容、レベルの適切さ」は 4.01 であり、かろうじて 4 点台に達している。

今回、学生への質問項目として、新たに設問 7 と設問 9 を加え、改善を図った。しかし、いずれも厳しい評価であった。

設問 7 は、「あなたはシラバスに記載されている到達目標に達したと思いますか」という質問である。平均得点は 3.56 であり、[強くそう思う] という回答は全体のわずか 0.7%、[ややそう思う] は 49%であった。双方を加えても、肯定的な回答は 50%に達していない。これの改善が課題となる。

更に厳しい結果は、設問 9 の「授業外学習時間の程度」に関する質問である。2 時間以上は 0 人、1 時間以上～2 時間未満は 9 人、1 時間未満は 85 人、まったくしていない人は 43 人もいる。単位の実質化が課題となっている状況に照らして照らして、授業時間外学習を促進する手立てを講じることが当面の課題である。

上記のように、「到達目標への到達度」についてはその結果は決して芳しくない。しかしその一方で、設問 10 の「この授業により考え方が培われたり、得るところがありましたか」という質問については、得点が 4.03 であり、割合は、a [強くそう思う] が 21%、b [ややそう思う] が 65%で、両方あわせて 86%であった。

「到達目標への到達度」と「授業の満足度」との間のズレ・乖離は何を意味しているのだろうか。到達目標の設定の仕方が悪いのだろうか？それとも、到達目標は授業者が勝手に設定したものであり、そもそも両者に相関関係などありはしない、ということをお話するのだろうか。いずれにしても、到達目標の設定の仕方と、学生への周知の仕方に工夫と改善の余地がある。

2) 「自由記述」に関する総括

自由記述欄における学生の声は多岐に亘っているが、三点に絞って総括する。

(1) 授業の内容や資料については、「プリント等の教材が豊富で、自己学習する際にとっても参

考になった」、「レジュメが非常に分かりやすく、後から読み返しても内容が理解しやすかった」などの声があり、総じて好評であった。

(2) 授業の進め方や方法については、「授業内容を順序だてて説明しており、理解しやすかった。」や「外部講師の話が有益でした」という好意的な声があった。しかし、その一方で、「もう少し主体的な活動があってもよかった」、「話し合いを取入れるなど、一方的な知識の伝達にならないようにしたらよい」という指摘もあり、大人数授業ゆえの制約はあるが、学生の活動を保障した授業展開、双方向の授業展開に努める必要がある。

(3) 指導案作成については、「グループで指導案を作り、考えを深めることができた。来年の実習に向けて役立つと思う」、「道徳の指導案を実際に考えてみることによって、道徳を教えることについて真剣に考えることができた」といった声があり、指導案作成の演習は大いに有効であったと考えられる。ただし、今年度は、受講者が大幅に増えたこともあり、模擬授業を行わなかった。しかし、模擬授業をやってみたいという学生の声があり、来年度は実施の方向で検討したい。

2) 今後の課題

前記したように、大人数授業の故に、きめ細かい授業展開は困難であり、学生の評価も高いとは言えない。

それでも、次の学生の声は授業者に元気を与えてくれる一言である。感謝しつつ記させて頂く。『『道徳』には『こうしなければならない』と押付けのイメージがあり、嫌いだった。だがこの授業を通して、押付けであったとしても、慣習道徳を学ぶことは非常に意義のあることであり、自分の良心を強いものにしていくためには必要なことであると認識が変わった。『嫌い』から『すごく必要なもの』への認識の変化は自分の中では大きかった。「学ぶことは、変わることだ」という言葉があるが、授業を通して、わずかでも、受講生の認識と生き方が変わったと言ってもらえれば、授業者にとってこれほど嬉しいことはない。

もちろん改善すべき課題も多い。そのなかでとくに、①「授業の到達目標」の設定の仕方の改善、②「授業時間外学習」の促進のための工夫を講じることが当面する大きな課題である。